



「主体的な学び」推進委員会通信

☆ 子どもを信じて委ねる・『主体的な学び』実現への手応え

小郡市教育長 秋永

子どもが自ら学び進めようとしているすばらしい姿を小・中学校で見ることができました。

味坂小学校「総合」竹ノ上先生、三国中学校「数学」中間先生の授業提案に心から感謝致します。

何れの授業も最後まで子ども達が追究意欲を高め、課題解決に向けて自分の力で考え、表現し、対話を繰り返し、そして学びを振り返ることができていました。また、子どもを信じて委ねつつ、進捗状況を的確に見取りながら、個別に寄り添い支援をされている授業者の姿がありました。

市内・県内からご参会いただいた先生方は、みなさん、これからめざしたい『主体的な学び』のイメージをつかみ、「手応え」を感じることができたのではないのでしょうか。

その後の協議では、「子どもに何をどのように委ねるのか」「発達段階や教科の特性に応じた自己調整の進め方」等、熱心に議論が交わされ、各学校での授業実践が大きく進み出していると感じました。中学校の先生からは、「子ども主体の学びで一番怖かったのは、知識が入るのかということだったが、生徒が言うには、『活動を通して知識が蓄積されていく、自分で獲得していくので、最後にワークや振り返りをするときに、このことはこういうことだったんだと、知識が結びついていく。』」と、生徒の言葉から啓発を受けたというエピソードも紹介されていました。

今回の授業は「日常の学び方の積み上げ」と「単元を通じた教材研究と準備」により実現されているものです。一人ひとりの子どもを大切に、自己成長を支えるこの方向性は教育の本質です。

『子どもを信じて委ねる』学びづくりが各学校でさらに充実・深化することを期待致します。

7/2(水) 味坂小学校 4年生(総合的な学習の時間)「ポピー祭りを盛り上げようプロジェクト」竹ノ上 隆成 先生

ねらい

子どもと地域の方々との協働参画活動を通して、「現実性」「効果性」の視点から互いに考えを摺り合わせてポピー祭りをよりもり上げるための具体的な方策を見いだすことができる。

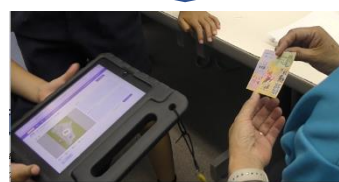
課題：来年のポピー祭りに来る人をもっと増やすためにアイデアを考え、実行委員会に採用してもらおう。



ポスター作成グループ



動画作成グループ



お出かけマップ作成グループ



グッズ作成グループ

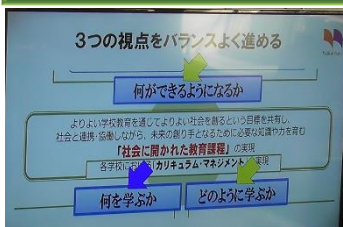
研究主任:伊藤成海先生より研究推進に当たって

昨年度は、「やってみよう」という意識が進めたところがあり、研究のねらいや方向性が曖昧で、教職員の共通理解が不十分でした。そこで、今年度は主題・副主題を一新し、より具体的な方向性を示すようにしました。今回の連絡協議会を経て、具体的な子どもの姿や「ルーブリック」や「ロードマップ」の活用の具体も見えてきたので、中間報告会に向けてブラッシュアップしていきたいと思えます。

授業者:竹ノ上隆成先生より授業を振り返って

実行委員さんに自分たちのアイデアを採用してもらうために、これまで子ども達は一生懸命準備を進めてきました。落ちこんだり悩んだりした時もありましたが、専門家の方々に力をかり、課題を解決するための術を見出していき姿にとってもワクワクしました。本気度が高まる子ども達の姿から私自身も本気になって「STEAM 教育とは何か」、「実社会と関わるとは何か」を、学ぶことができたと感じています。子ども達は今後、実行委員さんとの協議から得た方向性をもとに、最終の仕上げに入っていくようです。

専門委員 中村学園大学 教育学部 教授 山本 朋弘 先生より



味坂小学校の研究の一番大切なところは、『創造性』『論理性』『協働性』です。実際に子どもたちが「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになればいいのか」が一番大切なポイントになってきます。本日、味坂小の研究において、「そろえる教育から伸ばす教育へ」授業観・学習観の転換が図られていることを確認することができました。

主眼

避難所のスペースをデザインすることで、平方根が具体的な場面に使われていることに気付くことができる。

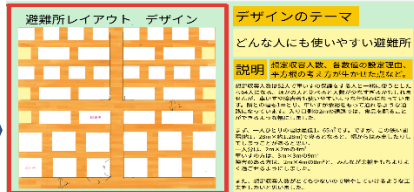
【いさく】段階

三国中の体育館を避難所として開設する際、一人あたり 1.65 m²の面積を確保しつつ、最適なスペース割をデザインし、提案しよう。

《課題設定の工夫》

★この課題に対する単元計画「シラバス」を生徒と共有

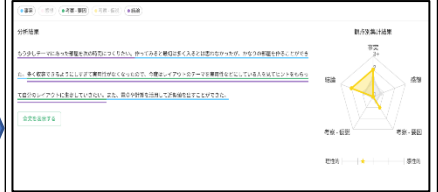
【いどむ】段階



《個または協働で解決》

★自分のテーマと√を使って避難所のスペースをデザイン

【いかす】段階



《スクールタクトの活用》

★次の学びに生かせるように自分の振り返りを AI 分析

研究主任: 和足聡先生より研究推進に当たって

三国中学校の学びの課題は、生徒の「主体性」です。そこで、今年度の三国中学校の主題研究のテーマは、「自ら学びに向かう生徒の育成～いさく・いどむ・いかすのアクティビティを通して」と設定しています。この研究を今年度から3か年で計画し、教師の同僚性を生かした「オープンクラス」等も活用しながら、学校全体で研究を推進したいと考えています。

授業者: 中間政弘先生より授業を振り返って

この単元では、「こんな力をつけてほしい」といった単元のゴールを『シラバス』という形で生徒と一緒に共有しました。今日の授業では、√の値の有効性や、どんなところに√が使われているのかといった所に帰着できるように授業を組み立てました。今回の振り返りで導入したAI分析の活用の仕方については、さらに検証し、改善していきたいと考えています。

～中学校区ごとの協議（テーマ：個別最適な学習と協働的な学習の一体的充実）より～

【大原中学校区】

- ・子どもに委ねる授業場面と、教師主導の授業場面についてバランスが大切。
- ・子どもたちの意欲を高めるような課題設定（導入）と、それを次につなげる振り返りが大切。

【小郡中学校区】

- ・ICT（タブレット）活用について、教員間で差があるのが現状なので、これを解消していきたい。
- ・ICTの使いどころを見極めて、その有効性について検討していきたい。

【立石中学校区】

- ・主に小学校の算数を中心に「方法選択」の場を設定することから実践をしている。
- ・子ども全員に自己調整を促すには、教師の準備や支援が今まで以上に必要だと感じる。

【宝城中学校区】

- ・教科の本質を踏まえた自己選択の内容や方法の検討が必要だと感じている。
- ・教師主導の授業がまだ少なくないので、まずは方法の選択から取り組んでいきたい。

【三国中学校区】

- ・三国小、のぞみが丘小共に、子どもに「何をどのように委ねるのか」を研究している。
- ・三国中では、小学校での積み上げを受けて、さらに教科の特質に沿った自己調整学習を進めていきたい。

北筑後教育事務所 菅 正樹 指導主事より

『子ども主体の学び』を実現するために

☆自己決定・自己選択

・一単位時間⇒単元レベル

・学習方法×学習形態⇒学習課題

⇒何を委ねて、何を委ねないのか

今後の研究をさらに推進するためには、一単位時間ではなく、**単元レベルで自己調整学習をデザインする必要**があり、中間先生が生徒と共有した単元計画「シラバス」は価値があります。

また、学習方法、学習形態、学習課題など選択・決定の中身は様々ですが、**「何を委ねて、何を委ねないのか」が大切**です。